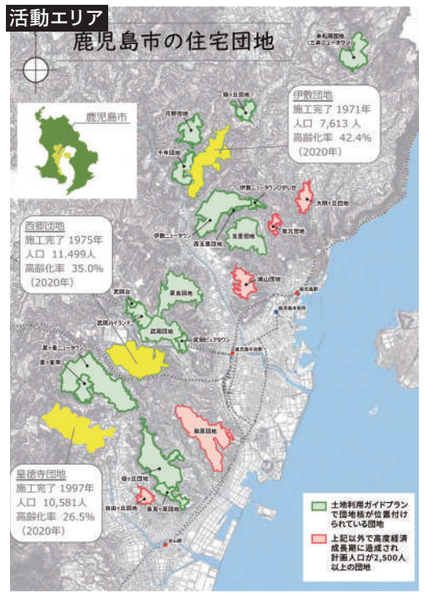
住まい活動助成

かごだんSTEP展開プロジェクト

鹿児島県鹿児島市

地方都市郊外の住宅地を持続可能なまちにするための地域住民と大学等の連携活動

鹿児島市の住宅団地を望む



団体設立経緯

鹿児島市では郊外の住宅団地を持続可能なまちにしていく取り組みの基本的な考え方を「**かごしま団地みらい創造プラン**」としてまとめています。このプランの策定にあたって3つの団地で市が主催したワークショップがきっかけとなり、各団地で住民有志のグループが2019年から活動を始めました。これらの活動に学生を含む団地外からのワークショップ参加者が継続して関わりながら、産官学民の輪を広げようと当団体を設立しました。

活動概要と活動対象範囲

桜島を望む台地上に広がる団地群は、生活に必要な諸施設とともに一定のまとまりのある生活圏を形成しています。ただ、開発から時間が経つにつれて人口の減少や高齢化が進み、暮らしのニーズは変化してきています。**かごだんSTEP展開プロジェクト**では、住民有志の活動に参加・協働しつつ、団地どうしの交流機会を企画したり、各団地での活動を発信したりすることを通して、お互いに協力・共有できそうなコトを探っています。

活動に至った理由や背景

かごしま団地みらい創造プランが対象とする一定規模以上の団地だけでも市内に29団地あり、約13万人が暮らしています。そのうち高齢化の段階が異なる3団地でのワークショップを通して、共通のニーズとして明らかになったのは「気軽に集まれる場づくり」でした。

各団地の物的な環境や活動の担い手には個性があります。その個性を活かしつつ、場づくりの取り組みの経験や資源を共有できたら、相乗的に活動を進められるのではないかと考えました。

活動内容と成果

【1】団地内で気軽に集まれる場づくり

3団地の住民有志のグループは、いずれも子育て世代からリタイア世代まで幅広い層のメンバーで構成されています。私たちは、会合への参加やイベントでの協働を通して団地の状況やグループの意向を確認しながら、「気軽に集まれる場づくり」に一緒に取り組んでいます。

各団地の住民有志のグループの紹介とともに、3団地での活動を以下に報告します。

●伊敷団地：人口7,613人／高齢化率42.4%（2020年）

「iがずんばいnishiishiki（iがずんばい西伊敷）」は、団地内を歩く高齢者のために木製ベンチを親子で制作して団地内各所に寄贈するなど、モノづくりに実績がある有志のグループです。メンバーには、高齢者のためにお惣菜の販売や茶飲み場の運営に取り組む方々もいます。これらの経験を活かし、場づくりの展開を具体化するためのワークショップを企画し、学生がファシリテーターを務めました。

第1回（21年6月19日：16名 参加）は、「団地内でワクワクすること！」を手がかりにイメージをふくらませました。参加者の関心や特技を反映して、語る場、食べる場、つくる場、憩う場が複合した「1日過ごせる公園」、団地内を歩いて巡る「まちあるきイベント」のイメージを具体化し共有しました。また、後述する西郷団地での「公民館カフェ」の予行練習を兼ねて、焙煎珈琲を使ったアイスブレイクも取り入れました。

第2回（7月24日：16名参加）は、第1回で一番人気を集めた「移動する書庫と読書空間」に必要なものについて、公園の模型を用いて検討しました。その後7月27日の定例会では、公園に本を持ち込む企画として練っていく方向性と、移動可能な本棚を制作することを確認しました。9月1日の定例会では、事例として子ども向けに本を用いたイベントに取り組んでいる方のお話を聞きました。

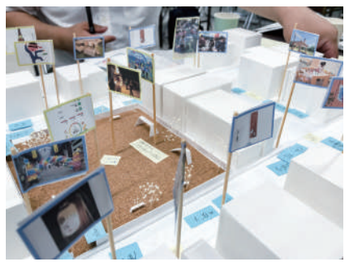
後述する「ハコ」を活用して年度末に公園で開催する計画でしたが、コロナ禍で延期となっています。

●西郷団地：人口11,499人／高齢化率35.0%（2020年）

「せごだん」は、公民館で気軽に珈琲が飲めるカフェを開いて、場の運営を積み重ねている団体です。

7月18日と11月23日に西陵南町内会公民館で開催されたカフェの運営に一緒に取り組みました。室内にキャンプで使う椅子やテーブルを持ち込んで語らう場をつくり、珈琲教室を開いて参加者一人ひとりに珈琲を淹れました。屋外では手網の焙煎に汗を流す人とそれを見守る人の輪ができ、珈琲は人を惹きつける魅力的な素材であることを実感しました。

また、せごだんは団地内の公園で定期的にフリーマーケットを主催しています。私たちは11月21日と12月19日に出店者として参加し、会場の空間利用を観察しました。ブースが広場の周縁に並ぶことで中央に



「iがずんばいnishiishiki」と企画したワークショップ。公園の模型を使って具体的に検討を深めた

「せごだん」と一緒に、地域の公民館で気軽に珈琲が飲めるカフェを開催

「楽交楽皇」と12月に地域の公園で開催した「らっこうマルシェ」。
しめ飾りづくりやモルック遊びなど、体験型のブースを重視した

11月、各団地で活動するメンバーが一堂に会した「かごだんの日」

組み合わせによってイスやテーブル、本棚にもなる木製ツール「ハコ」

空きスペースが生じている状況、物販と飲食のブースが中心で滞在できる場所が少ないことに気づきました。この視点は、皇徳寺団地での「**らっこうマルシェ**」の会場構成の検討に活かされることになりました。

●皇徳寺団地：人口10,581人／高齢化率26.5%（2020年）

「**楽交楽皇**（**らっこうらっこう**）」は、すべての世代が集える場の実現を目指して活動している有志のグループです。SNSによる団地内のお店紹介や、ごみ拾いをしながらのまちあるきなど、子どもたちができることを取り入れながら活動していることが特徴です。

グループの代表が一念発起して実現した「らっこうマルシェ」に一緒に取り組みました（12月12日に皇徳寺南公園で開催）。11月から集中的に打ち合せを重ねるなかで、体験型ブースを重視することになりました。地元の達人によるしめ飾りづくり体験や、モルックと呼ばれる木製ピンを倒して遊ぶコーナーを企画しました。かごだんの活動拠点で始めた木工作業が楽しくなって、木製のピンも自分たちで制作しました。クリスマスを前に、子どもも大人も楽しめる時間を提供する場となり、この活動は地元メディアにも取り上げられました。

●場づくりの基本単位となる「ハコ」の制作

各団地で場づくりに取り組むなかで、座れる空間が大事であると思い至りました。使い勝手の良い単純な仕組みで、組み合わせによって変化しうる**木製のハコ**を考案しました。

座ることと本を収納することを想定した大きさとし、耐久性がありつつも持ち運びができる重さとなるように部材の寸法を検討しました。かごだんSTEP展開プロジェクトの活動拠点である「**あいなか**」の庭先で、幅400mm×奥行300mm×高さ400mmのハコを年明けから本格的に制作し始め、1カ月ほどで30個のハコを完成させました。2月には移動式ゴミステーション制作ワークショップ（主催：町内会、協力：iがずんばいnishiishiki）の場に持ち込みました。休憩時の椅子やテーブルとして活用され、場所の一体感が生まれると好評でした。

ハコは現在、「あいなか」で本棚や展示台として使用しつつ、公園での花見に持ち出したりもしています。

【2】団地どうしをつなぐ関係づくり

●オンサイトの交流

各団地で活動する住民有志のグループが顔を合わせる場として、11月3日に「**かごだんの日**」を開催しました。「あいなか」に18名ほどが集まり、リノベーションで実績のある方のお話をみんなで聞きました。「まずは自分たちの暮らしを良くすること」を意識して活動するようにとのアドバイスが印象的でした。皇徳寺

2022年2月に、1年間の活動を振り返る座談会をオンラインで開催

団地の楽交楽皇メンバーは、この日の他の団地の活動報告が刺激となって「らっこうマルシェ」をやることを決心したと、2月のオンライン座談会で振り返っていました。

●オンラインの交流

1年間の活動を振り返る座談会を、22年2月6日にオンラインで開催しました。学生メンバーが聞き役となり、3つの団地の住民有志グループの代表者と鹿児島市都市計画課の団地活性化担当の職員ら、計12名の参加者が、各団地での活動を共に振り返りました。

今後の取り組みの方向性が語られるなかで、活動の進め方や仲間づくりに関する悩みも共通の話題となりました。オンラインの座談会でしたが、気軽に話せる場になりました。この座談会の様子は、下記の活動紹介冊子に収録しています。

●活動紹介冊子『縁』の制作・発刊

「暮らしの縁に触れてみる。」をコンセプトに、各団地における住民主体の活動を横断的に記録・発信する冊子を作成しました。『**縁**』という誌名は「ふち」「えん」「よすが」といった複数の読み方ができます。団地での活動も多様であるように、との意味を込めています。

団地の暮らしをより良くしていくために、これから何か取り組もうとする人の背中をそっと押せるようなものを目指して、構成やデザインを工夫しました。住民主体の活動の「ステップガイド」として活動を紹介するとともに、その担い手に着目した「人物インデックス」を付けています。この冊子は、団地同士をつなぐ媒体でもあります。各グループの活動での配布や、団地内外の店舗などに置いて、仲間づくりへとつなげていくことを狙っています。

課題と解決方策

本プロジェクトは、住民有志の取り組みに伴走して進めています。複数の団地で活動に関わっているからこそ、共通する点や逆に団地ごとに異なる点に気づけることがあります。ただ、イベントごとが重なる時期には負担が大きくなりがちです。

そのため、今後は産官学民の協力の輪を少しずつ広げていくことを考えています。都市計画課の熱い職員の皆さんは、当初から心強い存在です。21年度は都市ガス事業者（日本ガス）からお声がけがあり、団地を含む約15万戸に配布される広報誌で、団地や当プロジェクトを取り上げていただきました。「かごだんの日」をはじめとするイベントや「ハコ」の制作にも足を運んでくださっています。

こうした機会を重ねるなかで、団地の暮らしやその未来に関心のある市民や企業が関われる仕組み（協賛や広報）についてご相談し、活動の持続性を高めていきたいと考えております。

今後の予定

今年度制作した木製のハコを、団地内の人が集まる場で活用します。実際の使い方や移動・設営のしやすさなどの観点から検証を重ね、さまざまな目的や形態での場づくりの道具として必要な改良を加えていきます。

また、各団地での場づくりの経験やその成果を広く共有できるように、『縁』の次号発行やSNSを通じた情報発信の拡充、交流機会の企画を継続し、団地での暮らしを自分たちの手で豊かにしていく実践の輪を広げていきたいと考えています。

かごだんSTEP展開プロジェクト

2021年1月設立／メンバー数：14人／代表者：小山 雄資（こやま・ゆうすけ）
●〒890-0002　鹿児島県鹿児島市西伊敷4-17-10（あいなか）
kagodan.step@gmail.com

団地間の交流を深めながら、お互いに協力して持続可能なコミュニティの場づくりに取り組んでいます。住民主体の活動を、産官学民みんなで応援する仕組みづくりを目指しています。